

趣旨説明

「教育の接続」としての入試改革
～高校までの資質・能力の育成を大学でどう評価するか～

▶ 山本 以和子（大学コンソーシアム京高大連携推進室長／京都工芸繊維大学工芸科学部准教授）



皆さま、おはようございます。本年度、高大連携推進室室長を賜っております、京都工芸繊維大学の山本でございます。趣旨説明でございますが、このたびの「第17回高大連携教育フォーラム」で取り上げるテーマに即して、その背景等をおさらいしたいと考えております。

今日、日本の社会が急激な変化をする中、将来の担い手として必要な資質、そして能力を備え、さらに自立し、社会に貢献できる人材育成のための教育改革が求められています。当高大連携教育フォーラムでは、過去2回にわたりまして、「いま育成すべき力は何かをともに考える～高等学校・大学の役割～」をテーマに掲げ、教育改革を高校・大学が進めていく中で「若者にどのような資質・能力を身に付けさせるべきか」をテーマに取り組んでまいりました。

今回は、高等学校教育、そして大学教育、大学入学者選抜の一体的改革の1つである大学入学者選抜者改革をテーマといたしまして、大学入学共通テストの導入背景を踏まえつつ、そ

して、共通テストの出題方針、客観的評価等について見識を深める機会にしたいと思います。

さらに、主体性等の評価や調査書等の活用のあり方や方法について課題を共有し、大学入学者選抜がどのように変わろうとしているのか、高等学校までに育んだ能力、そして資質を大学入試でどのように評価すべきかなど、高校から大学への教育の接続を意識した入試改革について、共に考える機会としてこの場を設けております。

（スライド2）まずは、今回の教育改革を概観します。平成26年度の中教審の高大接続答申では、わが国が成熟な世界を迎え、知識量のみを問う従来型の学力や主体的な思考力を伴わない協調性がますます通用性に乏しくなる中、現状の高等学校教育そして大学教育、大学入学者選抜は知識の暗記・再生に偏りがちで、思考力・判断力・表現力や主体性を持って多様な人々と協働する態度など、真の学力が十分に育成・評価されていない課題認識がありました。このスライドの右側に書かれておりますように、厳しい時代を乗り越え、そして新たな価値を創造していくため、知識量だけでなく「真の学ぶ力」が必要で、その力の育成と多面的・総合的に評価する選抜、さらにそれを向上させる大学教育、その三位一体改革の方向性を示しました。

（スライド3～4）特に厳しい時代を乗り越え、新たな価値を創造していくための「真の学

ぶ力」は、何を理解しているか、何ができるかの「知識・技能」、さらに理解していること、できることをどう使うかの「思考力・判断力・表現力」と、どのように社会・世界と関わり、より良い人生を送るかの「学びに向かう力・人間性」を問うという資質・能力の3つの柱として掲げられています。この資質・能力の3つの柱をどのように育成するかにおいて高等学校教育改革が実施され、既に高校で取り組んでいらっしゃると思います。主体的で、対話的で、さらに深い学びを目指した学習プロセスの改善、そして、これからの時代に必要となる資質・能力を育む教育内容や素材といったものを見直し、また校外、そして社会との連携・協働を模索しながら、それらに与えるインパクトや貢献を重視するカリキュラムの開発も進めていらっしゃいます。一昔前から比べますと、学校での学びも学び方も随分様変わりいたしました。

(スライド5) これまで2回の高大連携教育フォーラムでは、この図の下の部分にあたる、「いま育成すべき力は何か」の何を学ぶのか、そして「高等学校・大学の役割」でどのように学ぶのかを皆さまと一緒に考えてまいりました。特に、昨年の副題「次期高等学校学習指導要領と高大接続の本質」に迫るために何を学ぶかでは、高等学校教育の質保証に関わる観点から基調講演をいただき、どのように学ぶかでは、主体的・対話的で深い学びをひもとき、習得・活用・探究の基礎知識を教え、思考力・表現力を通して深い修得を目指す授業のご提案を基調講演でいただいております。

(スライド6) さて、今年は「入試」、大学入学者選抜改革をフォーカスします。三位一体改革より、高等学校で育んだ資質・能力を大学入試で評価する方向性が示されました。そこでは現状の18歳頃における一斉受験や、マーク式解答による多肢選択式が中心で、中には知識の暗記・再生に偏っている出題となっていること、1点刻みの点数での可否に依拠しているこ

とといった大学入試の機能課題に目を向けられました。そこから、今後は、知識・技能、そして思考力・判断力・表現力、高校時代の活動や適性・意欲などを総合的に評価する入試を展望して、教科融合や記述式の問題、さらには複数回受験、CBTシステム等々の入試への導入が検討項目として挙がっています。

また、大学入試もアドミッション・ポリシーに基づく多面的な選抜を実施し、大学教育を受けるための必要な能力を一元的ではなくて多角的に判断して評価することが挙げられています。その結果、ここ数年、相次いで多面的・総合的な入試の導入が見られるところは、皆さまもご存じのことかと思えます。

(スライド7) その大学入学者選抜改革の主な取り組みとして、このプレゼンにあるような内容の検討、転換とすることとなりました。ご存じのとおり、2019年12月5日の報道では、政府与党による共通テストの国語・数学の記述式の延期検討が伝わってきています。それに先立って、11月1日には、政府において英語民間試験の実施の見送りが発表されました。

(スライド8) 本日は、それ以外に当たります「学力の3要素」の評価する入試の転換について取り上げたいと思っております。題して『『教育の接続』としての入試改革～高校までの資質・能力の育成を大学でどう評価するか～』です。文部科学省の平成33年度の「大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告」にありますように、大学入学者選抜では各大学の入学者選抜において「学力の3要素」を多面的・総合的に評価するものへと改善をすることを促しております。

皆さまのお手元の資料とは若干変更しておりますので、こちらをご覧くださいと思います。そこで、現在、推薦、AO入試において小論文、プレゼン、教科科目に関わるテスト、そして共通テストなどのうち、いずれかの活用を必須にしています。それから、調査書や面接、

ディベート、プレゼンテーションなどの志願者本人が記載する資料を積極的に使うこと、さらに、複数の素材を使って自らの考えを立論し、それを表現するプロセスを評価できるような記述式問題導入、そして、その充実に取り組むことです。調査書の記載内容改善などが主な検討、改善項目になっております。

本日の高大連携教育フォーラム第1部では、そのような大学入学者選抜の状況の下、白井氏からは、教科の知識獲得だけではない、コンピテンシーに関する議論を踏まえながら、新学習指導要領の「学力の3要素」、そして大学入試改革の目指すところについてお話をお伺いします。引き続いて、西郡氏からは、主体性等評価を捉えるための視点、そして、その評価のアプローチを紹介すると共に、教育接続という視点から大学と高校、その両方が取り組むべきことについてお話をお伺いします。その後のパネルディスカッションでは、「高校までの資質・能力の育成を大学でどう評価するか」といった観点から、高校のお立場、大学のお立場でご意見をいただき、ご来場者の皆さまと一緒に考えることができると考えております。

昨年度の分科会では、「学びの接続」を実現するために、高校と大学との対話を通した一人一人の若者の資質・能力の育成について、高等学校と大学の対話の場を設けました。今年度は「学びの接続」をさらに実現するため、入試改革に焦点を当てた、高校・大学の双方共に考える機会としたいと思います。さらに、分科会では、昨年同様に京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都府私立中学高等学校連合会、大学コンソーシアム京都で検討いたしまして、国語、地歴・公民、数学、理科、英語の分科会を設けております。各教科での高等学校教育と、大学入試、そして大学教育の接続を促進するための具体的な事案を取り上げる議論の場となればと思っております。本日は長丁場でございますが、ぜひとも最後までお付き合いいただき、1

つでも新しい知見の発見や気づきにつながればと存じております。

以上で、私からの趣旨説明は終わります。ありがとうございました。

スライド1

第17回
高大連携教育フォーラム

「教育の接続」としての入試改革

～高校までの資質・能力の育成を大学でどう評価するか～

趣旨説明



大学コンソーシアム京都 高大連携推進室
山本 以和子 (京都工芸繊維大学)

スライド2

入学者選抜の改革

三位一体改革の方向性

欧米諸国へのキャッチアップを目指し、知識量を増やすことに主眼を置いた教育
選抜の客観性を過度に優先した入試知識の暗記・再生を1点刻みに評価する選抜

厳しい時代を乗り越え、新たな価値を創造していくため、知識量だけでなく、「真の学ぶ力」が必要
多様な背景を持つ子供たち一人一人がそれぞれの夢や目標の実現に向けて努力した積み重ねをしっかりと受け止めて評価し、社会で花開かせる
大学の入口段階で求められる「真の学ぶ力」を多面的・総合的に評価する選抜

知識量の多寡でふるい落とすことを目的とした大学入試

知識伝達型の高校教育 → 入学時の選抜機能に依拠し、付加価値に乏しい大学教育

学部の3要素を多面的・総合的に評価する大学入学者選抜

一体改革

学部の3要素を育成する高校教育

高等学校まで培った力をさらに向上させ、社会へ送り出す大学教育

スライド3

超スマート化社会とグローバル化
未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に備えることのできる学校教育の実現

「知識の量」から「知識の質・深み」へ

学習指導要領改訂の方向性
育成を目指す資質・能力の3つの柱

学びに向かう力 人間性等

どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

「誰かから学ぶ」から「誰かから学ぶ」へ

何を理解しているか
何かできるか
知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか
思考力・判断力・表現力等

スライド4

学習指導要領改訂の方向性 (案)

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

主体性・対話性を重視する学びに向かう力、人間性の涵養

手帳の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成

成果 **何ができるようになるか**

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、卒業の創り手となるために必要な資質・能力を育む
『社会に関わった教育課程』の実現
各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

素材 何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（資格）」の新設など
各教科等での資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す
学習内容の削減は行わない。

方法 どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成
知識・量を重視せず、質の高い理解を促すための学習過程の質的改善

スライド5

第15回 高大連携教育フォーラム
「いま育成すべき力は何かをともに考えるⅠ-高等学校・大学の役割」

第16回 高大連携教育フォーラム
「いま育成すべき力は何かをともに考えるⅡ-高等学校・大学の役割
～次期高等学校学習指導要領と高大接続の本質～」

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、卒業の創り手となるために必要な資質・能力を育む
『社会に関わった教育課程』の実現
各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

素材 何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（資格）」の新設など
各教科等での資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す
学習内容の削減は行わない。

方法 どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成
知識・量を重視せず、質の高い理解を促すための学習過程の質的改善

スライド6

大学入学者選抜改革 ～なぜ改革が必要か～

現状

- 18歳頃における一斉受験（大規模私立大学の中には、1年間の受験者数が10万人を超える大学も）
- 解答方式はマークシートによる多肢選択式が中心（知識の暗記・再生に偏った問題も）
- 一点刻みのペーパー試験の点数に依拠した選抜を行うことが「公平」との意識

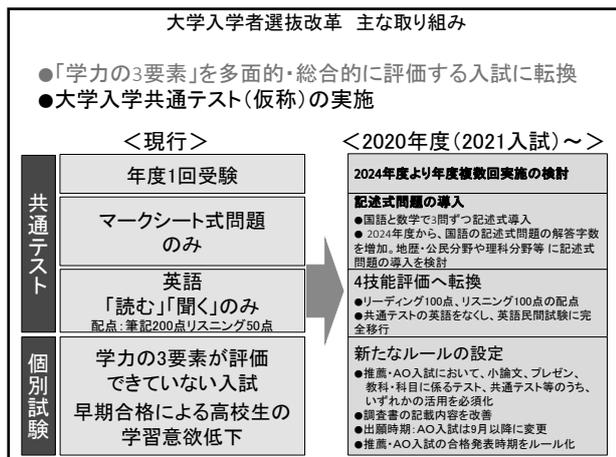
これから

『知識・技能』と『思考力・判断力・表現力』、高校時代の活動や適性、意欲等を総合的に評価

- ◇共通テストとして「**大学入学希望者学力評価テスト（仮称）**」を導入し、
 - ・「教科型」「合教科・科目型」「総合型」の問題を出題、段階別成績表示
 - ・マークシート方式だけでなく、記述式も導入
 - ・希望者に挑戦の機会を与えるため、年複数回実施※
 - ・CBT方式での実施を前提に検討・開発
- ◇各大学の個別選抜においては、アドミッション・ポリシーに基づく多面的な選抜を実施

これからの大学教育を受けるために必要な能力を把握

スライド7



スライド8

